☞　２頁から続きます。

また、災害対策委員会、連合女性会、連合壮年会の協働により、諸教会有志によりチームを編成し、福島震災支援活動を年1～2回行っています。14年度は11月10名、15年3月9名が、郡山コスモス通り教会メンバーと、緑ヶ丘仮設団地を訪問し、ミネラルウオーターをお配りし、マッサージ、歌と手遊びを行いました。

仮設住宅慰問

連合壮年会の役員となり1年が経過しようとしています。所属教会以外のことをほとんど知らなかったゆえに計画立案と活動、地方連合壮年会等代表者会議の中で戸惑ったこともあります。新しい1年で、活動の連続性（定着）、教会相互の交わり（連携）・支援の活性化を進めていくことができればと願っています。一つの教会の枠を超え、大きな輪の中で活動することで、主に喜ばれるより素晴らしい力が発揮できるのではないかと思います。祈りつつ歩んで参ります。

公　告

２０１５年度全国壮年会連合総会開催に関わる件

規約細則第６条の定め（６０日以上前）により表題の件を通知いたします。
開催日時：２０１５年８月２１日（金）14：45 ～
開催場所：東京都大田区産業プラザ　ＰＩＯ（一日目）、大井バプテスト教会（二日目）
議　　案：全国壮年会連合ニュース第８７号（６月末頃予定）に合せお知らせします。
代議員登録（規約細則第４条、第７条による）
　　派遣代議員：各教会・伝道所３名まで登録
　　登録締切日：７月２１日（火）／総会期日３０日前・・・参加者登録に合せて
＊規約細則９条により壮年会員は議案を提出できます。７月２１日（火）までに役員会に提出ください。

公　示

２０１５年度総会において以下の通り選挙を行います。

＜立候補対象＞

●２０１６・１７年度　日本バプテスト連盟全国壮年会連合　会長、副会長　各１名および監査２名
　「全国壮年会連合　規約」第７条および「同　規約細則第２１条」による。
　会長立候補者は当選後、総会にて事務局長、書記、会計各１名を指名し承認を得ることとなりますので、事前に選考願います。

●立候補締切り：2015年7月31日

●全国壮年会連合規約細則第２３条による選挙管理委員会の委員長宛に、書面で届出をしてください。届出の内容は、「立候補する役員名、氏名、所属教会、生年月日、受浸年月日」を記載してください。様式は自由です。

＜届出先＞

選挙管理委員長：石井　努　（北関東地方連合壮年会長）
　　（〒379-2301　群馬県太田市藪塚町1122-1　日本バプテスト太田キリスト教会気付け）
選挙管理委員：向井田洋（東北地方連合壮年会長）、北村慎二（関西地方連合壮年会長）、三室日朗（福岡地方連合壮年会長）

注１）選挙管理委員会は、総会当日まで立候補者名は公表しません。ただし立候補者ご自身のご判断で公表されることは自由といたします。

注２）会長と監査が同一教会・伝道所から立候補があった場合、選挙管理委員会にて調整させていただきます。

日本バプテスト連盟全国壮年会連合
〒336-0017 さいたま市南区南浦和1－2－4
事務局執務時間:月、水、金　10:00 ～ 16:00
☎・fax:048－886－7533　http://www.sonen.net　sonen@bapren.jp
Topics password　→　sorengo

伝道者養成＆教会形成
全国壮年会連合NEWS
第８６号
2015年5月1日発行
日本バプテスト連盟
全国壮年会連合
発行人：大城戸一彦
編集人：井伊肇
Topics password▸sorengo

神学校献金(神学生奨学金献金)郵便振替　00150-7-669605　日本バプテスト連盟　全国壮年会連合事務局

奨学金委員会の紹介

奨学金委員長　伊東信吉（大富教会）

特筆すべきことは、女性委員をお迎えしたことです。奨学金委員会では、これまでもセクシュアルハラスメントの講習を受けるなどして女性献身者への配慮に努めて参りましたが、増加傾向にある女性神学生や返還対象者に対して十分ではなかったとの反省に立ち、此のたび理事会から萩原永子(はぎわらのりこ)委員を派遣していただきました。加えて神学部からは須藤伊知郎先生を委員としてお迎えし、昨年の広島大会で選出された5人の委員、さらには事務局の飯野さんと一緒に「チームで祈り、チームで活動する」いわゆる「チームプレイ」の精神で活動を進めて参ります。これまで長きにわたり奨学金委員会の活動をリードしてくださった鳥飼好男さん(市川八幡教会)の穴を埋めるのは困難ですが、業務分担を見直し、より活動しやすい体制を整えました。

２０１５年度の奨学金貸与額は２６００万円を超えることになりました。これも喜びの出来事です。しかし、昨年度の神学校献金は目標額３０００万円に対して約２３００万円となっています。全国の教会、伝道所から２３００万円もの献金が寄せられていることに感謝しつつも、目標額３０００万円がいよいよ現実味を帯びてきたとの印象を受けます。役員会、地方連合会長、推進委員の方々に知恵を絞っていただき、皆さんでこのチャレンジを楽しんで参りましょう

返還状況については、昨年度から個人宛ての通知や推薦教会宛ての通知の充実を図り、改善傾向にあります。しかし返還猶予期間が過ぎても返還を開始出来ないケースもあり、個人との面談を実施ししたり推薦教会や関係者への連絡を強化しながら対応を進めています。具体的には牧師になりたいという意向はあっても招聘されない方々がおられ、収入の目途がつかないために返還できないケースがあります。委員会ではそのような方々が教会につながり、しっかり信仰者としての歩みをしつつ、ふさわしい道が備えられるようにと祈っています。

課題となっていた規約の改正は現在成案中ですが、その主旨をお知らせいたします。一つは西南学院大学の校納金の値上げへの対応です。神学生に学業に専念していただきたいとの思いから、校納金に関しては全額奨学金の対象としたいと考えます。二番目は奨学金貸与対象の条件として神学部の考えを重視するということです。神学部では「神学部での学び、研修教会での学び、学生寮での学び」を三本柱としています。このことはここ数年来、神学部の先生方が書かれた文章などで明らかに謳われていますが、神学生に十分に理解されていないのではと懸念しています。研修教会には神学生に対しての金銭的な支援も含め大変なご苦労をおかけしています。昨今、研修教会が偏る傾向が見受けられますが、全国の教会、伝道所からの招聘に応えるという意味では、神学部在籍中に一つの研修教会で学ぶのではなく、複数の研修教会に出席し、見識を広めていただきたいと願っています。さらに学生寮で生活を共にしながら主に仕えていく思いを強めていくことの大切さは言うまでもありません。奨学金の貸与は入寮することを原則とし、審査の段階で強く指導していくこととしたいと思います。

新聞などでは貸与型奨学金を見直して給付型奨学金に移行することを検討している大学が増えているという報道を目にします。当奨学金制度を急に変更することは困難とは思いますが、そのような報道にも注視しつつ、皆さんと今後の奨学金制度について意見を交換する機会が与えられるようにと願っています。

写真右から
篠田委員、原田委員、須藤委員、伊東委員、
萩原委員、山本委員、鈴木委員、事務局飯野さん

ー神学生の証ー

博士前期課程2年・泉選也（推薦：野方キリスト教会・研修：西戸崎キリスト教会）

今年で神学校での学びも六年目になりました。なぜ六年も学んでいるのか。それは高校卒業後すぐに神学部に入学したからです。入学の経緯として、まず幼い時から伯父でもある牧師の姿をいつも眺めていたことや、神学生との触れ合いによって、教会で働くことの憧れに近いものがありました。そして中でも私の心を惹きつけたのが、海外における宣教活動の報告でした。そこでの刺激的な話や写真を通して見える先生たちの様子に胸が熱くなりました。いつか自分もこのような働きがしたいと単純に思い、西南の神学部に入学することになりました。一年次はキリスト教人文学コースとして学校生活をスタートし、二年次に神学コースへ転コースしました。また地元が福岡なので実家から通っていましたが、三年次からは神学寮に入り、奨学金も受給するようになりました。学生会長、卒業論文や二回に及ぶ大学院受験を経て更に進学し今に至ります。学部、大学院ともに、金丸英子先生の指導によりバプテスト史を専攻しています。「若気の至り献身」などと言われることもありましたが、どこかの教会へと導かれるよう祈りつつ、しっかりと準備をしたいと思っています。

どうか壮年会にまつわる証しもさせてください。福岡では毎年６月末に、神学部と地方連合の壮年会とが協力して『神学校週間を覚える集い』を持っています。その際に、ある時期から推薦教会である野方教会の壮年会メンバーが賛美の奉仕をするのが定番のようになっていました。正直に言えば、何人もの親が授業参観に来ているような照れくささというか、恥ずかしさがありました。しかし、昨年は私自身がアルバイトのために集会に参加できなかったのですが、その事を到着してから知ることになってしまった時の壮年会の驚き様を後で聞かされました。「ファッ！？選也君いないの！？選也君に会いに来たのに…」。その言葉によって改めて、教会の人たちがどれだけ自分のことを想ってくれているのかが分かりました。と同時にそのことを受け止めていなかったことに対する後悔も与えられました。無論、具体的な支援は非常に大事ですが、それにも勝る励ましというのがここにあることを感じました。顔を見に会いに来てくれる、駆け付けてくれる。そういうものの大切さを知り、そういうものがあってはじめて、献金を受けることの重さや痛み、そして愛を深い意味で感じられるのだと知ることができました。これからも様々な形でのお支えを何卒よろしくお願い致します。全国諸教会伝道所の皆様、全国壮年会連合の尊いお働きに感謝して。

ー神奈川バプテスト連合壮年会ー

連合壮年会長　森　三樹　（洋光台キリスト教会）

主の御名を讃美します。

神奈川バプテスト連合壮年会は、神奈川県下の21教会で構成されています。21の教会を現在会員数、壮年会員数を考慮して、5つのブロックに分け、連合壮年会の役員を2年ごとに持ち回りで担当しています。2014年度と15年度は、Ｄブロックが担当です。Ｄブロックは洋光台、横須賀長沢、港南めぐみ、横浜大和町、鎌倉台より構成されており、森（洋光台）、藤原（港南めぐみ）、根塚（横須賀長沢）の3名を役員として選出しています。連合壮年会の総会は、6月第2日曜日15:00から、担当ブロックの教会で行うこととなっています。

総会の様子（姿勢を正して讃美）

さて、神奈川連合では、14年11月23日～24日に、一泊交わり会を企画しました。日曜日の礼拝後、8教会13名が三々五々三浦海岸根本荘に集いました。開会礼拝の後、子どもから大人までの礼拝のありかた（信仰継承）をテーマに分かち合いの時を持ち、夜はさらに大部屋で懇親会を持ちました。翌日は、第２の人生をどう生きるか（キリスト者として）をテーマに分かち合いの時を持ち、閉会礼拝をもって解散しました。大変深い交わり、分かち合いができとても祝福された時でした。今年度も主に期待しつつ祈りながら第2弾の一泊交わり会を予定しています。

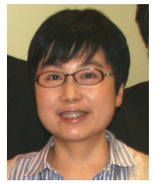
三浦海岸(ｲﾒｰｼﾞ)

一泊会分かち合いの様子

他にも、東京バプテスト神学校 模擬授業、天城で語ろう会（1泊会）、講師を招いての秋の研修会、教会相互訪問など年度ごとに特色のある企画をしています。

一泊会参加者

４頁に続きます　☞



「バプテストにおける伝道者養成」その１

日本バプテスト連盟宣教研究所非常勤所員　松見享子

今回の講演(注1)にあたり「バプテストにおける伝道者養成」というテーマをいただきました。教理を持つ教派なら、どういう「伝道者」を育てるのか、その教理に従ってカリキュラムなどを決めていけば良いのです。しかし、バプテストには決まった教理がありません。本来であれば各々の教会が各々の働きに応じた伝道者像を描いていくのだろうと思いますが、ここでは、協力伝道の枠組みの中で「牧師研修」の働きを委託されている宣教研究所（宣研）が、今「伝道者養成」にどのような視点で臨んでいるかということを皆さんにお伝えできればと思います。

さて、この5年間（2010～2014年）に新任で連盟諸教会に赴任した牧師の内、既に2割の方がお辞めになったというデータ(注2)があります。ちなみに、さらに5年遡っても大体2割なので、5年以内の離職率が極端に上がったわけではありません。ただ以前と比べて気になるのは、1年以内の辞任の増加です。それは新任牧師を「この教会の牧師としてふさわしくない」と1年足らずで見極めてしまう教会が増えたということでもあります。本人の資質を問うと同時に、非常に早い時期にそのような決断をされる教会の、その基準や意思決定のプロセスについても気にかかっているのです。

宣研では、牧師本人や教会から寄せられる相談などの分析をもとに、辞任に至る理由を大きく3つに分類しています。バプテスト理解の課題、コミュニケーションの課題、献身理解の課題です。バプテスト理解との関連で言えば、最近の傾向として、他教派から来られて牧師になる方が増えています。この5年間の新任牧師の2割強が他教派出身です。こうお話しすると、そういう方たちは、やはりバプテストの理解が難しくて続きにくいのかなと思われるかもしれないのですけれど、事はそれ程単純ではありません。実際にはバプテスト教会で育って、バプテストの神学校に行って、バプテスト教会の牧師になった方が、本人と教会とのバプテスト理解の違いで葛藤するということが起こっています。あるいはコミュニケーションの課題。「今度の牧師とは対話ができません」と嘆く声を聞くことがありますが、牧師になったその方は、ずっとバプテスト教会で教会生活を送って来たのです。今まで教会でどうしていたのでしょうね。献身理解のこともそうです。

牧師という職務、牧師として献身するということの理解がどのように培われるのかということについて、出身教会や神学生時代に関わった教会は無関係でしょうか。今の神学校の入試制度では、神学校に進んで伝道者になりたいという人が起こされた時、教会がその召命観や献身の思いを吟味して推薦をします。つまり一人の人の「献身」の過程に、必ずその献身表明を聴いて「良し」とした教会があるわけです。私は牧師研修に携わっているので、最初はどうしても牧師たちの課題にしか目が向きませんでした。ですが年を経るうちに、これは本当に牧師になっていく人だけの課題なのかと考えさせられています。「伝道者養成」の場としての神学校がある。宣研も入学前、神学生時代、卒業時、牧師を続けていく折々に研修で関わっている。それでも「バプテストの伝道者養成」において最も重要なのはやはり教会です。「教会が伝道者をどのように育てるのか」、「伝道者が育つ教会とはどのような教会なのか」ということです。現状を考えると、今「伝道者」たちに見られるバプテスト理解、コミュニケーション、献身理解の課題は、実は教会自身の課題でもあるように思えてくるのです。

さらに最近の新任牧師の課題として、漠然とした印象ながら、より深刻なこととして気になることがあります。それは「神学する力」の弱まりです。「神学する力」、この定義は難しいのですけれど、様々な信仰的な事柄、教会や社会で起こる事柄について、自ら聖書に聞き、自分なりの信仰理解を持ち、同時に、それを絶対化せずに他の人との対話によって吟味することまでを総じて、ここでは「神学する」ことだと言いたいのですが、その力が弱くなっているのではないかな、ということです。具体的に言うと、どうしてそうなるかを考える前に真っ先に「答え」、ハウツーを求められることが多くなったなと感じます。バプテストは固定化された教理……これこそまさに「答え」ですが……を持たないことを選び取った群れです。それは裏を返せば、信仰とは何なのか、聖書をどのように読んだら良いのか、常に自ら考え続けなければいけない、ということです。「神学する」ことは、まさにバプテストのアイデンティティに関わることであり、バプテスト教会に仕える、バプテストの「伝道者」に不可欠な力です。そして、「伝道者」が抱える課題は、その「伝道者を育てる」教会の課題でもあるとしたら、そのような「神学する力」の弱まりという課題もまた今日の教会自身の課題と無関係ではないでしょう。

1. この原稿は2015年1月24日開催「きたかん壮年会研修会」での講演記録を大幅に加筆・修正したものです。
2. 毎年度開催している宣教研究所主催「新任牧師・主事研修会」参加者についての宣研独自データによります。